

-----7月4日-----

※ 今週のアウトルック (7/4~7/8)

先週は、もみ合いながらも、このところの円安上限を試しに行くような動きでした。ただ、上限を抜けきらないうちに週末を迎えてしまい、円安トレンドの本格的な再開は、今週の米国雇用統計の結果を見てから、というような気もします。

月曜日が、米国独立記念日でNY市場がお休みで、取引日が1日減っているうえ、ADP雇用統計が木曜日発表となっているため、7/7、7/8は大きく動きそうな予感です。雇用統計がある程度予想通り回復していれば、本格的な円安トレンドの始動ということになるかもしれません。

ドル円は81円のレジスタンスを大きく超えることができずに、先週末を迎えています。米国雇用統計の結果をある程度織り込んでから動きたい、という意味表示のような気もします。

今週末の雇用統計がある程度予想通りに回復していれば、ドル円、クロス円ともに、円安トレンドが本格化してくることが考えられます。このところ、狭いレンジでのもみ合いが続いていたため、一度動き出してしまうと大きく動いてしまう可能性が高いように思います。

ドル円の予想レンジは80.5円から82.5円です。

ユーロは、ギリシャ問題に関し長期化が予想され、目新しい材料が出つくしてきているため、注目が米国経済の回復に移っているようです。ユーロ円は、ユーロドルの動きよりも、ドル円の動きに大きく連動するように思います。こちらも米国雇用統計の結果次第といった感じです。

ユーロ円の予想レンジは116円から121円です。

ポンド円は、128円台をつけて、一度下げ止まった可能性が高そうです。ただ、こちらも米国雇用統計の結果次第という可能性は高く、予想通りであれば、そのまま上昇トレンドに乗れそうですが、予想を裏切られた場合は、下降トレンドの再開という可能性も、考える必要があるかもしれません。

ポンド円の予想レンジは129円から134円です。

今週は、米国雇用統計にいつも以上に注目が集まりそうです。発表時前後の大きな動きにも注意が必要ですが、薄商いを狙った仕掛け的な動きにも、十分な注意が必要のように思います。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。